



#### 企業の3つの目的

1. 現在から将来にわたって、お金を儲ける
2. 現在から将来にわたって、従業員に対して安心して満足できる環境を与える
3. 現在から将来にわたって、市場を満足させる

—平然とした顔をしていながら常に水を掻いているアヒルのように—

今月の東社長からの“地動説”メッセージ —2007年12月—

## 「新・3ない運動」

先日、えびの高原ドライビングスクールに、トヨタ自動車の中川副会長がお見えになりました。『経営の時代』を読んで当校に興味を持っていただき、足を運んでくださったのです。中川副会長と言えば、トヨタではNo.2の方で、フランスの大統領に面会が出来るほどの経済界の要人です。その方がわざわざ人より牛が多い「えびの」に来られるとのことで、さすがの私も前日からかなり緊張してしまいました。

ところで、私は以前、中川副会長からある宿題を頂いていました。

その宿題とは、「低迷している乗用車の国内販売台数を増やすための策を提言してほしい」という難題でした。近年、若者の車離れが顕著で、さすがのトヨタ自動車も危機感を抱いているというのです。

私は、どんな提言をすればよいのか考えた末に、現在高校が実施している“3ない運動”に着目しました。

“3ない運動”とはご存知の通り、「免許を取らない」「乗らない」「買わない」という独自規制です。多くの高校で、運転免許取得については学校の「許可制」としており、解禁時期を設けています。

こうした規制によって、自動車学校では、例年2月3月にお客様が集中して混雑するという現象が起こります。

もちろん、乗れないという状況を改善しようとする自動車学校側にも問題はあります。しかし、現状の“3ない運動”は、交通

事故抑制の効果が認められないばかりか、混雑する教習所で3日に1時間しか教習を受けられない事で、運転がなかなか上達せず、その結果“運転の楽しさ”を実感できないまま免許を取得する若者を量産する原因になっているのではないかと私は思っていました。以前は、車の運転は「楽しみ」の一つでしたが、今は携帯電話が一番の楽しみになってしまい、車の運転は必要な資格の一つという位置付けでしかなくなっています。

運転の楽しさを知らない訳ですから、特に必要性が無ければ「車に乗りたい」とか「車が欲しい」という気持ちも起こりません。

そこで私は、高校と自動車学校が共に協力して、法律通り18歳になったら免許が取れ、高校在学中に十分な運転の練習と経験をさせるための“乗せて教育する”システムを提言することにしました。社会において“運転すること”の大切さを知り、同時に“楽しさ”が実感できるようなシステムです。ただし、免許を取っても事故を起こしたのでは何にもなりません。そこで事故防止のためのルールとして“新・3ない運動”を提唱しました。

- ・ 友達同士で「乗らない」
- ・ 夜間は「乗らない」
- ・ 保護者の同乗なしに「乗らない」

高校と教習所と保護者が連携し、愛情を持って子供達の免許取得のあり方を見直すという私の提言に、中川副会長は強い関心を示され、私は安堵の気持ちとともに、大きな手ごたえを感じたのでした。